

(1)児童の体力の現状

- 男子の上半身起し、50m走、女子の長座体前屈は、多くの学年で県平均を上回った。
- 一昨年結果がよくなかった6年生は経年比較で結果の向上が見られた。
- 4年男子はすべての項目で県平均を上回った。
- 2年生と5年生が県平均と比べ下回っている項目が多く見られた。
- 男女ともに20mシャトルランとソフトボール投げの結果が県平均より大きく下回っている。
- 女子の反復横跳びでは多くの学年で県平均を下回っている。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

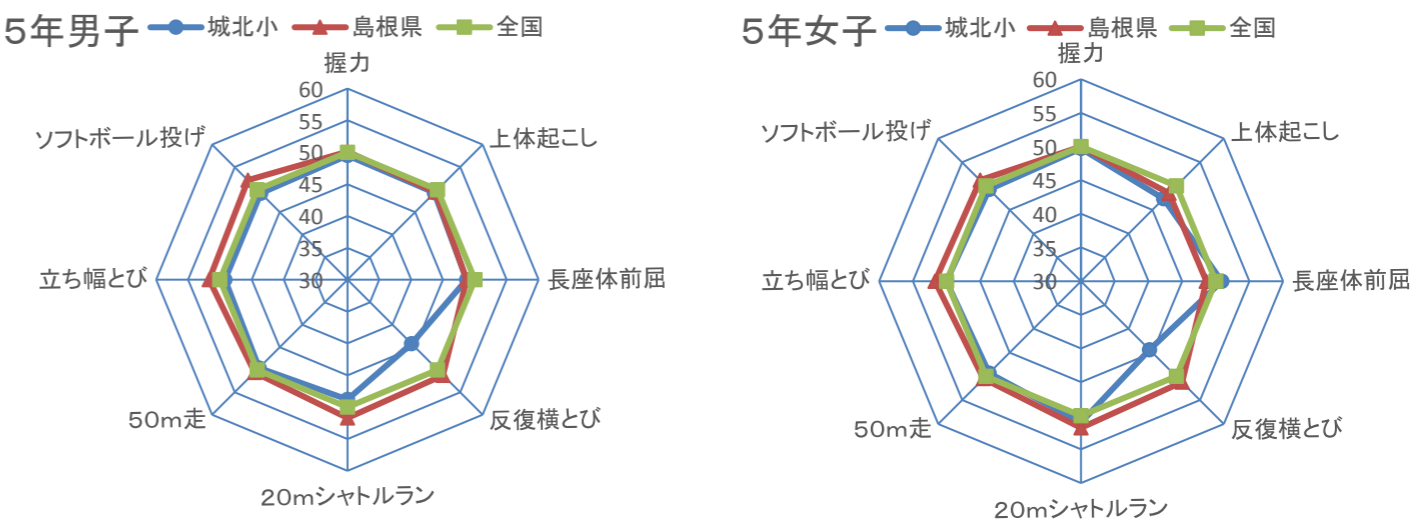
- 具体目標「筋持久力の向上を目指した体幹の育成と体育授業の充実」
- 「シャトルラン」「反復横跳び」「ソフトボール投げ」の数値を県平均に近づける。各学年が16枠のうち8枠は○がつくようにする。
 - 児童一人一人が目標をもって取り組めるような支援や指導の充実
- ロング昼休みを利用して、縦割りで体を動かす機会を体育委員会の企画で実施できた(体育フェスティバル)。リレー、ドッジボール、長縄など、楽しみながら体を動かすきっかけになった。
- 長縄や短縄、しせい体操などの音源の入ったメディアプレーヤーを各教室に置き、雨の日でも教室で子どもたちが主体的に体を動かす機会を増やすことができた。
- 2年生と5年生が県平均を下回っている項目が多く、目標の学年8枠には達しなかった。5年生については、9割以上が「運動が好き」と答えているが、「体育の授業が楽しい」と答える児童が少なく、8割を切っている。
- 体幹を鍛えるため、朝の時間にしせい体操を取り入れてもらうように呼びかけたが、全校体制でとはならなかった。
- 昨年度から配布している『城北の体育(決まりごと)』の服装や集合の仕方、ボールや施設の使い方などのルール・ルールの徹底が課題である。

(3)31年度の取組【対策】

- ①学校における取組
- ・ロング昼休みを利用した体育委員会の体育フェスティバル、3学期の縄跳び集会はねらいを明確にし次年度も継続する。
 - ・音源の入ったメディアプレーヤーの活用は続け、しせい体操など全校体制で取り組める日常的な活動を取り入れる。
 - ・校庭や体育館、器具庫の整備を進めるとともに、全教職員で『城北の体育』で示された約束を再確認して次年度をスタートする。
 - ・ねらいを明確にし、一人一人が目標をもって取り組める、「できるわかる授業」に向けて、授業改善を進める。
- ②地域や家庭との連携による取組
- ・PTA総会、学校保健委員会などで、児童の実態や課題について情報発信をしていく。
 - ・地域講師による、クラブ活動での専門的な指導をお願いする。(ゲートボール、3B体操など)
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
- ・「食」について、養護教諭や栄養教諭、そして家庭と連携を図る。学校での食育の学習の機会を捉えて、家庭へ向けて「食」について啓発をしていく。
 - ・正しい生活習慣の確立のために、全学年、年間1回以上のメディア学習を実施していく。

調査実施者数(人) 1年(男子53・女子29) 2年(男子47・女子55) 3年(男子48・女子40)
4年(男子37・女子44) 5年(男子25・女子33) 6年(男子34・女子42)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

